

平和を希求する心を育てる取組

報告年月日 2019年9月24日

都市名・国 テヘラン・イラン

取組の名称	「幼い語り部たち」(サルダシュトとテヘランでの子ども向けワークショップ)
実施主体 (該当項目に✓)	<input type="checkbox"/> 学校 <input type="checkbox"/> 自治体 <input type="checkbox"/> NGO <input checked="" type="checkbox"/> 複合(テヘラン平和博物館、平和首長会議イラン支部、ハデイス早期児童教育センター)
テーマ・目的	本プロジェクトの主な目的の1つは、戦争が子どもたちに及ぼす影響について周知し、世界の子どもたちが互いの物語を理解しあうようにすることである。併せて、イラン・イラク戦争の戦後第3、4世代への影響を彼らの絵を通じて検証し、戦争または戦後を経験した子どもたちの物語を収集することが本プロジェクトが目指すもう1つの狙いである。
対象者 (年齢・学年、人数等)	サルダシュト:5年生 60名(男女各30名) テヘラン:セダガット女子小学校:7名(5年生) ハデイス早期児童教育センター:女子17名、男子17名
実施場所	サルダシュト(イラン西アゼルバイジャン州): コウサル女子小学校 エンゲラブ小学校 テヘラン: セダガット女子小学校 ハデイス早期児童教育センター
実施期間	2018年12月5日~2019年7月19日 開始日は本プロジェクトの企画立ち上げの時期であり、終了日はプロジェクトで集められた絵画の最後の展示会のもの。プロジェクトは現在も継続中であり、テヘラン平和博物館児童部では今後も更なる展開を目指している。 サルダシュトの就学児童向けワークショップの期間は1日。

取組の概要

本プロジェクトは「戦争と大量破壊兵器にさらされ、戦争の余波にいまなお直面している都市に暮らす子どもたちが自分たちの街をどのように見ているか」という問いから始まった。この疑問の答えを見つけるため、テヘラン平和博物館(TPM)児童部はサルダシュトの大量殺戮に関する情報を同館の常設展や、同館のガイドを務める化学兵器の被害を受けた退役軍人、生存者の日記、同館の口述史料を通じて収集した。

本プロジェクトの実施場所としてサルダシュトを選んだのは、この町が1987年6月28日に近代史上初めて化学兵器の爆撃を受けたことからきている。

サルダシュトでは、女子校と男子校で4クラスを対象にワークショップを実施した。TPMと児童部の簡単な紹介から始め、その後、ルーミーの詩に基づくイランの物語「暗闇のゾウ」を生徒たちに語り聞かせた。

「暗闇のゾウ」の物語:数年前のこと、ここからさほど遠くない町に、ゾウがどんなものかまったくわからない人たちがいた。みんなはゾウの正体を知りたくてたまらなかった!どんな外見だろう?何色をしているんだろう?そのほかにも謎ばかり。ところが、ある日、インドの商人たちが1頭のゾウを町に連れてきた。到着した時は夜も更けていて、ゾウは明かりのない部屋に入れられた。朝まで待ちきれなかった人たちは興味津々でゾウを見にやってきた。ドアの後ろで大勢が待っていたので、商人たちはゾウを見学する代表者を数人選び、代表者が仲間に見たものを伝えることになった。ドアを開けて部屋に入ると、真っ暗だったので、彼らは視覚以外の感覚を使うことにした。——ここで一度話を止め、質問を投げかける。:ゾウを知るにはどんな感覚を使えばいい?——彼らはゾウを触りはじめた。ある人は脚を触り、ゾウは柱のような姿をしていると考えた。もう1人は耳に触れ、うちわのようだと思った。背中をなでた者はベッドのようだと考え、最後の者は長い鼻を触って雨樋のようだと思った。それぞれ意見が割れたので、とうとうケンカにまでなった!でも、本当に正しかったのは誰だろう?——ここで、次の質問を生

徒に投げかけた。自分だったらどうする？ どのようにしてゾウの姿を理解する？——生徒たちはさまざまな解決策を考え、クラスで発表する時間をもった。物語で出された解決策は——誰かがロウソクを持ってきて、みんながゾウを見るようにしたことだと生徒に伝えた。物語を語り聞かせたのち、これはゾウをまったく知らない人たちの物語だが、イランや世界中にはあなたたちの町についてなにも知らない子どもたちがいると生徒に伝えた。地理や歴史、言語、そして、サルダシュトが初めて化学兵器による爆撃を受けた町であることなど、この街に関する基本情報はほとんどない。そうした時に、ほかの子どもたちに自分の町をどのように紹介したいかと問いかけた。その後、1人ずつ挙手してこの質問に答えた。最後のステップとして、生徒を5、6人のグループに分け、街について述べたことを絵に描かせた。絵を描くときのルールは次のとおりである。

- 絵はグループで制作する（個人の絵は受け付けない）
- 主題は各グループのメンバーで選ぶ
- それぞれの参加者につき1色選べるようグループのメンバーで適切な色の振り分けを話し合う
- ベルが鳴ったら、グループのメンバーはお互いの色鉛筆またはクレヨンを交換する

テヘランでも、同じ内容のワークショップをセダガット女子小学校とハディス早期児童教育センターで開催した。これらのワークショップの成果はテヘランとサルダシュトでの2つの展覧会で発表された。サルダシュトの展覧会初日は、同市への化学兵器攻撃31周年記念日に合わせて行われた。

本プロジェクトの成果を受け、別のワークショップも企画されている。

参加者の反応

- サルダシュトの子どもたちは自分たちの町を紹介するにあたり、町への化学兵器による爆撃及び近親者の健康に対する影響のみならず、緑豊かな自然、人々のホスピタリティ、おいしい食事、衣装、そして地域の舞踊など、サルダシュトのその他の特徴についても述べた。
- テヘランの子どもたちは、戦争とその影響についてまったく話さなかった。街を紹介するという課題への反応では、主に高層建築物、汚染された大気などが挙げられた。
- テヘランで開催された絵画展を通じ、テヘランの子どもたちはサルダシュトの大量殺戮を間接的に学んだ。

成果

- 平和首長会議イラン支部とサルダシュトの自治体との協力関係の発展
- テヘランなどその他の都市の子どもたちがサルダシュトの大量殺戮や同市の子どもたちの物語について知る場の形成
- 本プロジェクトから、生徒たちによるテヘラン平和博物館訪問のためのワークショップを企画
- ポレドクタなどその他の都市とのこのプロジェクトに関するさらなる協力関係の発足

課題

私たちはサルダシュトに関して多くの情報を集めたが、ワークショップを開催するにあたり、サルダシュトの市民はイランの公用語であるペルシャ語とかなり異なるクルド語を話すため、コミュニケーションにおいて困難が生じるのではないかと心配していた。

取組で使用した素材について

絵画の材料：厚紙（50×70センチ）、色鉛筆、クレヨン

上記素材の共有の可否

掲載可能（素材を添付してください） 掲載不可 不明



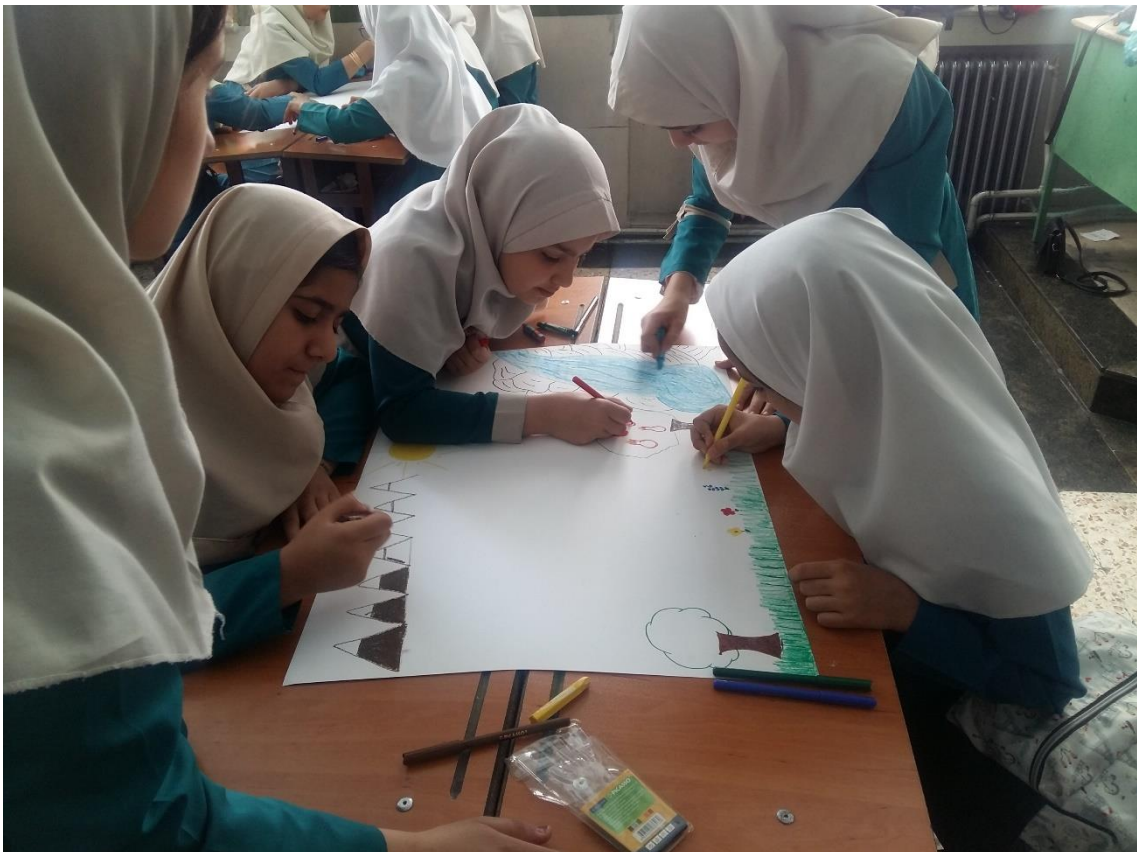
コウサル女子小学校にて—TPM 児童部の職員の1人が生徒たちに「暗闇のゾウ」を語り聞かせている。



自分たちの町に関する意見を発表しようと手を挙げる子どもたち



絵にぴったり合う色を選んでいる子どもたち



生徒たちは主題について意見をまとめ、絵を描き始めた



平和首長会議の認定書を手にするサルダシュト市長（中央）—TMP 児童部代表の1人との会合にて



女子校の第1回ワークショップに出席したサルダシュト市長



男子校にて一グループで絵を描く少年たち

サルダシュトの子どもたちによる絵



テヘランの子どもたちによる絵

